

令和6年度 都城市立乙房小学校 学校関係者評価

4段階評価【4…そう思う(100~90%達成) 3…だいたい、そう思う(90~80%達成) 2…あまり、そう思わない(80~60%達成) 1…そう思わない(60%以下)】 ※「-」は、調査していない項目

本校の教育的課題	評価指標 (児童の意識・姿・態度)	職員の評価	保護者の評価	児童の評価	地域の評価	自己評価	自己評価コメント	学校関係者評価	学校関係者評価コメント(成果○と課題●)	次年度に向けた改善策
学力の向上	主体的に学ぶ態度の育成	学習に対して主体的に取り組んでいるか。	3.0	-	3.1	-	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の「学習への主体的な取組」についての自己評価は、「そう思う」「だいたい、そう思う」が8割を超えていた。学習への主体的な取組は学力の向上につながるので、児童が自ら進んで考える活動を取り入れるなどの工夫が必要である。本年度も、職員全員で指導法改善や授業の振り返り等の授業研究を行って授業改善に取り組んできた。これからも、日々の授業の積極的な改善に努めたい。 ○ 「学習内容の定着」については、児童の評価と比較して、職員や保護者の評価が低かった。児童は、授業中、内容を理解しているのかもしれないが、その後の復習不足で定着していないことが考えられる。 ○ 家庭学習については、児童の評価は3.7だが、職員の評価が3.2、保護者の評価が2.9と低い結果であった。各学年で示した学習時間の目安(低学年～30分、中学年～45分、高学年～60分)を達成できていない。宿題をしてこない児童が一定数おり、同じ児童が忘れがちという実態がある。 ○ 読書活動については、保護者の評価が2.1とかなり低い結果となった。しかし、図書室の貸出冊数は12月6日(金)現在、14,700冊を超えており、昨年度同様、年間20,000冊に到達することが期待できる。また、児童は、くれよん号(市立移動図書館)が来るのを心待ちにしており、くれよん号からの貸出数も多い。学校で読む機会は確保されており読書習慣は身に付いているが、学年が上がるにしたがって少年団や習い事、メディアに時間を費やすようになり、家庭では本を読む時間が限られているため、保護者の評価が低くなっていると考えられる。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ● こつぐん(プリント)をやったりやらなかったりなど、宿題の取組が学年(先生)で差が激しい。ギャップに戸惑わないように一定の整合性を取った方がよいのでは。 ○ 提出することが目的の宿題にならないようにすべきであろう。山形県の日新小学校のように「提出不要の復習プリント」を取り入れたらどうだろうか。 ● 外で遊んでいる児童を見かけない。ゲームをしているのか、塾に行っているのでしょうか。 ● 子どもの会話は必ずゲームの話である。 ● 学習内容の定着については、児童と先生方に大きなギャップがある。児童は分かった気になっていたり、誤った理解をしたりしているのではないか。 ● 授業を積極的に改善してもらいたい。 ● 教科書を使った(教科書に沿った)教育を願う。 ● 教材よりも教科書を使った教育を願う。 ● 宿題をしてこない児童は、内容が分からなくなるやしないのか、分かっていてやらないのかどちらであろうか。分かっていないなら提出を期待するのは難しいであろう。 ● 本の貸出数が2万冊を超えるのは評価できるが、貸出冊数=読書量ではないので注意が必要である。図書館に勤務した経験から借りたことで満足してしまう児童が多い。このあたりが保護者の評価が低い理由と思われる。 ● 貸出冊数ではなく、内容だと思います。 ● 児童が本を借りていたら、「どんな内容なの」とか「面白いところを教えて」とか声かけをしてみてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が主体になる授業づくりについては、他校との合同研修の中で、情報交換や協議をしてきている。児童一人一人の学力向上に向けてさらに研究を深めていく。 ○ 校内でもタブレットPCを使う時間や使用するアプリについて職員間で検討した。児童にも伝え、タブレットPCの使い方について共通理解することができた。家へ持ち帰った時の使い方についても、再度保護者と共通理解していく。 ○ 家庭の日(毎月第3日曜日)の親子読書タイムの取組を通して、家庭での読書の質について考えさせるとともに、読書の習慣化を図っていく。 ○ 学年に応じた本の選定を意識させ、読書の質の向上を図る
	当該学年の学習内容の確実な定着	学習内容は定着しているか。	2.5	2.9	3.3	-				
		学校は、分かりやすい授業を行い、一人一人を伸ばす指導に努めているか。	3.1	3.0	-	-				
		宿題等の家庭学習に確實に取り組んでいるか。	3.2	2.9	3.7	-				
読書活動の推進	読書量の増加、読書活動の意欲向上が図られたか。		3.1	2.1	3.0	-				
豊かな心の醸成	自他の命を大切にする態度の育成	学校へ登校することが楽しいか。	3.1	3.5	3.3	-	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命を大切にする態度やきまりを守ること、友達と仲良くすることについては、児童の自己評価は高かった。交通事故は、0件であった。今後も常時指導を継続し、児童の豊かな心の醸成を目指したい。 ○ 学校へ登校することが楽しくないと回答した児童が17%いた。その原因をしつかり明らかにしていく必要がある。毎月実施している児童へのアンケート結果を基に、確実に教育相談を行い、児童の望ましい人間関係の醸成や早期の悩み解消に努めていきたい。また、本年度も保護者向けアンケートも実施し、児童アンケートだけでは得られない情報を収集することができた。次年度も継続して、早期発見・早期解決につなげていきたい。 ○ あいさつについては、児童の評価は高いが、職員や保護者の評価は低い。学校であいさつはしているが、声が小さい。そのため、学校外や地域でのあいさつについても児童の声が聞き取れないということも考えられる。本年度は、児童委員会が児童玄関前で朝のあいさつ運動に取り組んだ。高学年がしっかりあいさつすることで、下級生へのよい手本となるので、具体的な場面(登校時にスクールガードの方と会った時など)を示して、常時指導を継続していく。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十分に楽しんでいる。学校に行くのを楽しみにしている。 ● 楽しくないと回答した児童が17%という数字は少しだけ心配である。原因の把握が喫緊の課題である。 ○ 学校外の地域では、あいさつがされていると思います。 ● あいさつについてはだいぶよくなつたが、まだ言えない子、声が小さい子がある。 ● あいさつをする子としない子の差が大きく感じる。 ● 登校班では、高学年が率先してあいさつをする姿を見せることが重要。 ● あいさつやきまりを守ろうとする態度は大人が率先して示すことが大事だと考えるので、先生方からも積極的にあいさつをしてほしい。 ● 多様性の時代の中、個人の違いを認め合い、尊重し合うことをどう理解させるかが課題である。 ● 6年生の先輩が優しいのか、何をしても無視。先輩を立てることを教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の大切さに関しては、日常生活の中で常に意識させ、自分事として捉えることができる児童を育成していく。 ○ 今年度は、児童会を中心となつたあいさつ運動を実施した。今後は、そのあいさつの輪を広げられるような活動に取り組む。 ○ 児童だけでなく、保護者向けの生活アンケートも定期的に実施してきた。児童アンケートでは知りえなかった情報も保護者から得ることができたので、児童が安心して学校生活を過ごせるようさらに保護者と連携を図っていく。
		命について考えたり、命を守る行動を実践したりする学習を通して、児童が命を大切にしようとする態度が身に付いているか。	3.2	-	3.7	3.5				
	基本的な生活習慣の定着	自分からあいさつをしているか。	2.6	3.0	3.4	3.1				
		校内外のきまりを守ろうとする態度が身に付いたか。	2.8	3.4	3.3	3.5				
	望ましい人間関係の醸成	自分や友達のことを大切にし、仲良く過ごしているか。	3.1	3.4	3.5	3.6				
		学校は、子どもたち一人一人の「よさ」や「がんばり」を、認めたりほめたりしているか。	3.3	3.1	-	-				

体力の向上	安定した生活リズムの形成	早起き、早寝が習慣化されているたか。	3.2	3.2	3.3	—	3	3.2	○ 生活リズムはほぼできていると思われる。睡眠は記憶の定着や整理と密接な関係があるので、その重要性も伝えてほしい。 ● メディアコントロールが必要と考える。 ● タブレットPCを持ち帰り、タイピングソフトやブラウザゲームなどを行うことが多く、メディアコントロールが難しい。 ● パソコンやスマートフォンなどの使用は、時代の流れであり止めることはできないが、学校・家庭での指導がより重要になると思います。 ● 近年の夏場の気温では外遊びができないのは仕方ないが、春や秋でも公園に集まつてもゲームをしている子どもたちが多い。 ● 各家庭でゲームやスマホのルールを作っているのだろうが、高学年では6割がルールを破ってしまうという調査結果もあるので、難しい問題である。 ● 特に挙げれば、学校のイベントでなく、地域の事業にも保護者共に参加を増やし、地元に根付いてほしい。 ● 定期的な保健指導は必要である。 ● 手洗い・うがいについて保護者の評価が低いということだが、保護者はやっているのであろうか。「子は親の鏡」である。 ○ 一律の体育の授業ではなく、苦手な子を別メニューで指導し、運動習慣を身に付けさせるなどの工夫も考えられる。	○ 本年度の学校保健委員会では、PTAが学校に積極的に協力して「睡眠時間とメディアコントロール」について取り組んできた。2年計画で実施しているので、来年度も保護者への啓発など、内容の充実を図りながら取り組んでいく。 ○ 家庭でのゲームやスマートの使い方、ルール作りについては、家庭と情報交換するなどして連携していく。	
		朝ごはんは習慣化されているか。	3.4	3.2	3.8	—					
	保健衛生習慣の定着と健康や安全に対する実践的な態度の育成	手洗い・うがいなどの保健衛生習慣が身に付いたか。	3.1	2.9	3.4	—					
	体力の向上	体力向上プランをもとに、体を動かした遊びや日常的な運動習慣の形成や、体力の向上が図られたか。	3.1	2.9	3.4	—					
ふ開かされたとた教育校のづくり進り	積極的な学校の情報発信と相談体制の充実	参観日や学級通信、学校通信、ホームページで、学校や学級の様子を発信できているか。	3.7	3.5	—	4.0	3	○ 学校通信を保護者や地域に配付したり、ホームページを毎日更新したりして、保護者や地域の方へ学校や学級の児童の様子を伝え、高い評価をいただいた。 ○ 保護者からの相談への対応について、職員の自己評価は高かったが、保護者の評価は「そう思う」「だいたい、そう思う」が8割であった。対応のどのような点が不十分であったのか再考する必要がある。今後も誠意ある対応に努めたい。 ○ スクールガードの方をはじめ、児童の安全に関わっていただいていることに大変感謝している。本年度は、乙房壮年部や乙房自治公民館と協働で「炊き出し訓練」を計画した。雨のため実施はできなかったが、学校と地域が同じ目的をもって協議できたことはとても意義深い。 ○ 地域の祭りやイベント等、地域とつながる活動が増えることで、児童が地域の一員として自覚する機会となり、ありがたかった。	3.6	○ 積極的に情報発信をされており、評価できる。 ○ ホームページをチェックする人は少なくなっていくので、SNSなどの発信も検討してはどうか。 ● 先生たちが多忙なことは理解しているが、保護者が頼れるのは先生方なので、適切に対応していただければ有り難い。 ○ 地域行事とPTAの連携がとられており、よいと思う。(夏祭りなど) ○ 現在の状況はとても良いと思う。 ○ ふれあい体験活動やキャリア教育座談会に多くの地域の方々が参加・協力していることは評価できるので、今後も続けてほしい。 ○ スクールガードについては、地域によっては交替で立たれてますが、皆さん大きな声であいさつをしてくださり、元気が出ます。 ○ 児童は、六月灯など地域の行事によく参加していると思う。 ○ 子どもたちは、地域のいろいろな行事にはみんな喜んで参加しています。 ○ 先生たちの人となりを知るためにも、PTA総会後に乙房公民館で職員(先生方)・保護者・地域の人との会合が復活することを願う。 ● 炊き出し訓練を実施できなかつたことは残念である。	○ 今後も、積極的にホームページや学校だよりなどで、学校の様子を保護者や地域の方に発信していく。 ○ 学校の行事に積極的に参加してくださるのはとても有り難いことである。参加しやすかった、参加してよかったですと思っていただけるよう、方法や内容を工夫していく。 ○ 地域の行事に児童が参加できるようにするには、保護者の協力が不可欠である。地域と連携した活動が盛んになるよう保護者の意見を取り入れながら、ふるさと教育を推進していく。
		学校や担任は、保護者からの相談に誠意をもって対応しているか。	3.8	3.1	—	—					
		学校は、お子様のことと相談しやすいか。	—	3.0	—	—					
		学校は、地域からの依頼や相談に誠意をもつて対応しているか。	3.6	—	—	3.7					
	ふるさと教育の推進	地域人材や素材を活用した学習を通して、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを愛する心情が育っているか。	3.5	3.4	—	3.6	3	○ 「乙房ふれ愛祭り」を本年度も実施できた。ふれあい体験活動やキャリア教育座談会に多くの方が講師として参加してくださり、地域人材を活用した学習を進めることができた。今後も地域人材や素材を活用した学習の推進により、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを愛する心情を育てるこを目指していきたい。	3.6	○ 今後も、積極的にホームページや学校だよりなどで、学校の様子を保護者や地域の方に発信していく。 ○ 学校の行事に積極的に参加してくださるのはとても有り難いことである。参加しやすかった、参加してよかったですと思っていただけるよう、方法や内容を工夫していく。 ○ 地域の行事に児童が参加できるようにするには、保護者の協力が不可欠である。地域と連携した活動が盛んになるよう保護者の意見を取り入れながら、ふるさと教育を推進していく。	
		児童は、地域の行事に参加しているか。	—	—	—	4.0					
	児童の安全に関する連携	学校・家庭・地域が連携して児童の安全を守っているか。	3.7	3.4	—	3.4					